

役員紹介

(令和8年3月改定)

役職	氏名
会長 総括	金沢 敬雄
副会長 全般	安藤 謙
副会長 親睦旅行	永井 太
副会長 市民フォーラム	城本 裕二
副会長 会計	檜岡 純子
役員 勧誘推進担当	丸山 文子
役員 //	吉川 賢二
役員 //	山崎 桂子
役員 //	飯田 眞理子

(令和8年2月22日)

役職	氏名
役員 勧誘推進担当	田中 実
役員 //	宮崎 聖
役員 //	中川 早苗
役員 //	伊藤 英幸
役員 //	深井 泰子
役員 //	黒川 哲至
— ホームページ	河野 司
— 事務局・秘書	佐藤 貴則



45年目を迎えて役員から

友の会創設45周年を迎えて

1981年8月に故神野哲夫先生が創設された脳卒中友の会(1996年にFujita脳神経外科友の会に改名)が2026年で45周年を迎えました。

自身、友の会と関わって10年目になりますが、故神野哲夫先生に最後にお会いしたのが2021年5月末にジャパン藤脳クリニックでした。

その時、友の会が創設40年を迎えましたと報告すると『そうか…40年か…』としみじみと言われたのが今でも印象に残っています。

それから僅か2ヶ月後の8月6日にご逝去されました。

Fujita脳神経外科友の会 副会長 **安藤 謙**

40周年の2021年から5年、新型コロナ感染拡大で、3年間は友の会の2大行事(市民フォーラム・親睦旅行)は自粛、その中での活動は、ホームページでの医療講演動画WEB配信・ZOOMトーク会など従来とは一変した活動となりました。

また、コロナ収束後の2023年からは、2大行事を(市民フォーラム講演数絞った短時間開催・どなたでも参加し易い日帰り親睦旅行)変更して開催してきました。今後も、友の会の運営に努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

45周年を迎えて ～「ご縁あって」～

Fujita脳神経外科友の会設立45周年誠にありがとうございます。

私、皆様の力添えで副会長を務めさせて頂き3年が経ちました。記念すべき年にこのような重要なポジションに居られますこと、改めて感謝申し上げます。

さて、古い話ですが、私と藤田医科大学の繋がりは、今から41年前にさかのぼります。当時出向していたバス会社が新入生のオリエンテーション輸送を請負っており、毎年春に七栗への送迎を行っていました。全学部の学生さんだったのでしょか、期間も長かったと記憶しています。同時に、その頃は貸切バスの需要が高く、自車両だけで台数をそろえることができず、苦勞した思い出も甦ってきました。

それから35年、2020年4月に脳血栓で搬送されたのが「ばんたね病院」脳神経内科でした。その後、主治

Fujita脳神経外科友の会 副会長 **永井 太**

医に再発が不安だからと相談をしたところ、加藤先生に診てもらおうようにと話を頂き、その後は他科を受診するのも全て加藤先生に甘えてしまうこととなりました。

その2年後には、あまり症例がないという病気で緊急入院し、即外科で手術、1か月の入院となりました。この時も、加藤先生には入院の手配、手術後はラジオ体操するから6階に上がってくるようにとお声がけを頂いたり、診察室に私の名前が貼ってあったりと、大変気にかけて頂き感謝の念に堪えません。

改めて、藤田医科大学には会社員生活の始まり、会社員生活の終焉を迎えようとしている人生の区切りで、不思議な「ご縁」があったのだと痛感しております。

これからも「Fujita脳神経外科友の会」が続く限り、「ご縁」を大切に、友の会の運営に努力してまいりますので、何卒、よろしくお願い申し上げます。

45周年に寄せて

Fujita脳神経外科友の会 副会長 檜岡 純子

Fujita脳神経外科友の会創立45周年おめでとうございます。この節目を迎えられましたのも活動を支えてくださった会員様のおかげです。そして献身的に導いてくださっている佐野公俊教授、加藤庸子教授に心より深く感謝申し上げます。

「35周年のあゆみ」「40周年記念誌」そして「45周年記念誌」に役員として寄稿できたのも会員様との絆の賜物として光栄に思います。友の会最大の行事である一泊旅行もコロナにより中止となりましたが、令和5年5種感染症移行にて日帰り旅行ですが再開できました。オンラインの講演会も会場での開催となり足を運んでくれる聴講者が年々増えておりコロナ前に戻りつ

つあります。元気な顔を拝見すると微力ながら貢献でき嬉しく思います。

私事ですが、この5年、山あり谷ありですが役員の皆様が親身になって励ましてくれて苦難を乗り越えることができました。

脳の病気以外においても加藤先生に相談させていただくと「すぐにいらっしゃい」と救いの言葉で絶望から希望を授けてくれます。

心身ともに助けていただき、友の会の一員であることに感謝いたします。培ったこの絆を大切にし一層精進してまいります。

今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

友の会45周年に寄せて

Fujita脳神経外科友の会 副会長 城本 裕二

皆様こんにちは。平素は友の会の活動並びにいろいろなイベント等にご参加、また、金銭面も含めましてご協力を頂きまして、心より御礼申し上げます。

この友の会も45周年を迎えることになりまして、ただただ驚くばかり、諸先輩の皆様、また、この活動をずっと引き継いで来られた皆様に、改めまして、心より御礼を申し上げたく存じます。

病院と患者さんが、その退院したあとも（あるいは入院中も）、ずっと縁が切れることなく、この人数、この組織をもって、延々と続いていくという、唯一無二の、本当に素晴らしい友の会と感じ入っております。

45周年の次は、当然、50周年と言う、大きな大きな節目がやって参ります。どうか皆様、それまでご自愛頂きまして、皆様と共にその日を迎えたく。

末筆になりますが、加藤庸子先生はじめ、諸先生方、看護師さん、スタッフの皆様、その他関係各位の皆様、この場をお借りしまして、改めまして、御礼申し上げます。

友の会45周年に寄せて

Fujita脳神経外科友の会 役員 丸山 文子

Fujita脳神経外科友の会45周年おめでとうございます。

友の会の出会いは18年前、救命センター前で手にした会報でした。神野哲夫名誉教授が表紙を飾り、治療のみならず病院外での活動があることを知りました。患者様に寄り添う心、友の会は佐野公俊名誉教授、そして加藤庸子教授に引き継がれ、皆様と共に発展してきました。

市民フォーラムでは、病気を知る学びの場になり、旅行では元気になられた患者様との出会いの場となって絆を深めてきました。患者様同士の繋がりも広がり、心も豊かになって前進してきた友の会に心より感謝しております。

これからどうぞよろしくお願い致します。

会員たよりから

患者さまたより 【会報誌57号P17より】

会員 松坂 貞子

脳ドックで脳動脈瘤が見つかりました。

「半年後、もう一度MRIをとって経過観察しましょう。治療は開頭手術でクリッピングしかないです」と。「まさか!」何とか逃げようとマイナー志向でした…ある人からばんだね病院の加藤庸子先生の話を知りて知るまでは。

それからはネットで調べていくうちに前向きにやってみようと考えられるようになり、加藤庸子先生に私はお願いしたいという思いが日に日に強くなりました。転院を決断し紹介状を書いていただき、加藤先生にお会いすることができました。

すごく緊張しましたが、先生の笑顔は魔法でした。先生はすぐ「じゃ、三週間後手術しましょう。一緒に頑

張りましょう!」「は、はい!」と返事をして家に帰って来ました。先生の「一緒に頑張りましょう!」のお言葉が心強く、嬉しく、先生について行こうと強く思いました。手術の日までは、当たり前のように生活している事がこんなに幸せ、健康がこんな宝物と実感の日々でした。退院して好きなピアノやエレクトーンを弾いたり、ダンスをしたりして体が動かせるのか不安もありました。しかし、そんな不安はいつも先生の引き込まれるパワーと魔法の笑顔で勇気になりました。優しくとても信頼ができ、今までに出会った事のないとても魅力的な先生です。今は前と何も変わらない生活ができていて事に感謝をし毎日過ごしています。加藤庸子先生、スタッフの皆様にもよくしてくださりありがとうございました。

おたよりコーナー 【会報誌58号P9より】

会員 江崎 審

私は基々たくさんの病気を抱えていて(脳卒中・心筋梗塞ともに一過性)不整脈・心不全等あまりにもたくさんの病があるのにやさしく親切に全部診察していただきました。

全て完治して90才までゴルフを行うとずうずうしく思っております。

私共は基々妻とぜんそくの持病があり長野県諏訪に家を建て療養するつもりが脳卒中になり富士見高原松本相澤病院にお世話になりましたが、やはり名古屋の病院の方が良好と言われちょうどその前年に妻が6か月入院して堀口高彦先生とお話しする機会

があり加藤庸子先生を紹介され全ておまかせすれば大丈夫と心強くお教えいただき「お願いします」と即答しました。

手術は本当に1～2時間(全身麻酔)最も驚いた事は術後の早い回復過程です。

三日後には院内を歩くことができると言われました。

その他にも行動の速さがバイタリティ本にある通り神メンタル全てにおいて見ならう事ばかりです。

僕の『家宝の本』です。これからも通院等御会いする機会がありましたら宜しくお願い申し上げます。

おたよりコーナー 【会報誌59号P11より】

会員 高野 勲夫

2021年の3月私は志賀高原で仲間たちとスキー滑走を楽しんでいましたが突然転倒したのか、衝突したのか?一時間程の記憶を失い仲間の看護師とスキーパトロール隊の指示で地元の総合病院に緊急搬送され検査の結果、ただちに帰宅し脳外科の診察を受ける様にとの指示有り、加藤庸子医師診察判断で緊急入院「正常性水頭症の髄液シャントの手術」を受け無事に回復出来ました。

おかげさまで翌年もスキーを楽しむことが出来感謝でした。

3月のスキーシーズンも終わり手術後一年たち加藤先生にその後の経過観察を受けた際に、腰痛がひどく近くの整形外科でレントゲン検査をしたものの異常なしとの結果だったことを、加藤医師に相談したところ直ちにMR等の検査を受け、整形外科の医師から

脊髄に細菌が侵入して炎症を起こす「腰椎化膿性脊椎炎」と診断され緊急入院となりました。

整形外科の担当医師から手術が必要との宣告受け、直ちに化膿を止める抗生物質の投与を6週間入院加療、細菌との闘い一時退院の後7月再入院人工骨とボルト二本で固定する手術となりました。

加藤医師の的確な判断と指示により正に命と障害から二度にわたり救われ、後遺症もなく無事に退院できました。

施設にお世話になっていた母は私の病状も知る事もなく9月末に百歳で眠るように亡くなりましたが、お蔭で喪主として送る事が出来、加藤医師、丹羽医師、病棟の看護師さん大変お世話になり感謝の一言です。本当にありがとうございました。

栃木のかかりつけ医からうちでは治療が難しいと言われ途方に暮れていた時にテレビ出演していた加藤庸子先生を見て、夫から「すぐにこの先生のところに行くように」と言われました。

紹介状も持たずに予約もないまますぐに受診すると、その日のうちに手術日を決めて下さいました。(2017年11月のことです)

加藤先生はいつも優しく言葉をかけて下さって心から安心感が得られます。

あれから4回加藤庸子先生に手術をして頂きましたが術後の痛みも全くなく、後遺症も残らず毎回驚きのスピードで回復しています。

先生に出逢えなければ私の人生は終わっていたと思います。

加藤庸子先生に4回の手術をして頂いて、また新しい命を頂きました。

これからも一日一日を頑張って生きていきます。

自分と同じ悩みを抱えている人には、名古屋に行って加藤先生に手当して頂くように話をしたいといつも思っています。

今回の手術も本当にありがとうございました。

本当に安心しました。

心から感謝しております。

本当に行けました！バス旅行【会報誌62号P15より】

会員 粂井 文柄

JRバスは鮮やかな緑色のシートでお迎えしてくれました。

終始、スタッフの方の手際よい対応と、優しい話し声に包まれて、初参加のバス旅行を楽しませていただきました。

先生も、普段と同じ表情で、リラックスした雰囲気の中、色々なお話をしてく下さいました。

快晴の竹島の景色は、想像していたよりも素晴らしく綺麗でした。

海風を感じながら歩くと心がスッパリ、穏やかになりました。芝生の上で、ラジオ体操をみんなで楽しみ、初参加の緊張感もほどけていきました。先生やスタッ

フの方、留学生、他の患者さんからも、貴重なお話を聞かせていただきました。

普段の生活では、考えられない特別感で、私は、満たされた気持ちでいっぱいになりました。

参加された皆さんと、様々な経験を共有し、新たな気づきを得ることができた素敵な旅行となりました。

先生との旅行は、宝物のような思い出となり、これからも先生との信頼関係を大切にしていきたいと感じました。

これからもこんな活動(旅行)が、ずっと続いていくことを望みます。

2024年10月27日 脳神経外科友の会昼神温泉旅行感想文

【会報誌63号P13より】

ばんたね病院 看護部 看護科長 山崎 富善

この度、2024年10月27日(日)に、脳神経外科友の会昼神温泉旅行に参加させていただきました。友の会の旅行は今回で2回目となりました。

今回は、100人を超える参加者となり、バス3台での旅行になりましたが、バスの中では、自己紹介から始まり、カラオケ大会が開催されました。友の会の皆様の歌唱力には、驚きました。青春を謳歌していた当時の歌を、みんなで一緒に楽しく、元気に歌っている姿をみると、我々もエネルギーをもらい、元気になりました。初めて会う参加者同士が、カラオケ大会を通して、仲良くなる姿もあり、チーム「ザ・友の会」の一体感を感じました。

湯元ホテル阿智川では、友の会の皆様との交流や特別講演、体操そして、おいしい食事と楽しい時間を過ごすことができました。友の会の皆様と病院以外で話すことで、病院では聞けなかった、自宅での楽しいこと、苦労していることなど聞くことができ、私にとっても貴重な時間となりました。

次回は是非参加させていただきたいと思います。

そして、大人数にも関わらず、素晴らしい企画を立てて頂きました友の会の役員の皆様に心より感謝申し上げます。次回も楽しみにしております。ありがとうございました。

鳥羽日帰りバス旅行に今年も親子で参加させていただきました【会報誌64号P18より】

会員 出山 恭子

今年のバス旅行を前に、母は6月に1ヶ月間ほどばね病院へ入院をしたり、その後も救急車のお世話になったりしましたので、10月に元気で参加ができるのだろうか、申込時には少し不安を抱えていました。

でも、カレンダーに大きくバス旅行の予定を書いておいたのがよかったのか、楽しみが健康に加勢をしたようです。

昨年に増して少しずつ足が弱ってきている母ですが、今年もまた車椅子を頼らずに名鉄のホームから杖をつきながらゆっくり歩いてなんとかバスの集合場所まで行くことができました。

(いつものことですが、駅のホームから集合場所までが

私達親子にとって最難関です・笑)。

そこからは看護師さんをはじめ皆さんに大変よくしていただき、私まで安心して1日楽しく過ごさせていただきました。

帰り際に同じバスだった方から「また来年も来ましようね」と母に声を掛けていただき、私もとても嬉しかったです。

母への刺激だけでなく、私の心をも満たしてくれるとこのバス旅行に感謝するとともにまた次回も参加することを目標にしたいと思います。

最後に、役員のみなさまどうもありがとうございました。

鳥羽旅行の感想文【会報誌64号P18より】

会員 河村 登

鳥羽日帰り旅行ではお世話になりました。

私は病院と同じ町内に居住致しており、友の会へ入会は三年目ですが、今回初めて参加をさせていただきました、集合場所の受付及びバス車内での看護師様役員の皆様及び、バスガイドさんの気遣いで大変楽しくカラオケなどで過ごさせていただきました。

参加者の皆さんの自己紹介での話をうかがい皆さんの病院への感謝と信頼の気持ちがよく分かりました。勉強会での事ですが、立衿医師の腎臓に付いての講演は私にとって大変勉強になりました、私事ですが妻が長い間腎臓診察を受けておましてクレアチン数値が上がり透析開始の時期になりました時に、ばん

たね病院腎内科の前川医師より移植の可能性の話を頂き、私の思いも移植を希望してましての折でしたので、紹介を頂き八事日赤病院での移植検査の結果移植手術を無事に終えまして今年で七年半経過しております術後は妻の日常生活もほぼ支障なく行えてその機会を作って頂き感謝のしだいです、今回の講演ではその時の事を思い出し私自身に取っても腎臓の注意意識を再度持つ機会にになった思いです。

医師看護師役員の皆様のお世話になり帰宅迄心地良く過ごさせて頂き感謝しております。

ありがとうございました。

鳥羽日帰り親睦旅行に参加して

【会報誌64号P18より】

会員 堀部 義則

昨年秋の旅行日は、わが家の主役であった妻が直前に天に召され、旅行当日が葬儀だった日でした。

今回は娘と二人で三人分の気持ちで参加させていただきました。

加藤先生に優しく声をかけていただき、顔いっぱい喜びを表していた妻の姿が目に見えようでした。

今回の旅行の前日に一周忌を終え、『明日はバンタネットアーに行くよ』と『一緒だよ』と声をかけ今回のツアーに参加し、心安らぐ一日を終えることができました。

加藤先生に叱られ、褒められ、おだてられ、ほぼ植物人間の状態から五年間お世話になりました。

三年目に旅行のお誘いを受け、『エッ』と驚くとともに妻は喜色満面『お願いします』とハッキリとご返事をしていたのがつい昨日のようです。

先生をはじめ病院の関係者の方々、そして役員の皆様のキメ細かいいわゆる万事に遺漏のない諸手配に心より感謝申しあげます。